

## 青春18きっぷで「光秀ゆかりの福知山城と御霊神社」を訪ねる(京都)

福知山への燦歩は、昨年7月に予定していたのですが、その頃は「命にかかわる危険な暑さ」といういわくつきの酷暑が続いていました。福知山市でも高温が続き、その数日前には全国の最高気温を記録するほどで、私たちは止む無く実施を諦めたのです。(予定していた7月22日、福知山市の最高気温は38.1度になりました)そして今回、ようやくリベンジする事になったのです。

福知山へは、阪神からは福知山線経由、京都からは山陰線経由、という2つのルートがあります。私達は、阪神から5組、京都から1組、遠い人が青春18切符を持ち、合流を繰り返しながら、11時半福知山駅に集合しました。参加者は、男性17名(内ビジター1)、女性2名でした。



!! 福知山の駅に、ありました !!  
「麒麟がくる」です。

来年の大河ドラマの主人公は明智光秀。  
光秀は1579年(天正7)年8月、  
丹波の国の豪族たちを平定します。

光秀の生年は1528年頃としか知られて

いませんから、50歳を過ぎた頃でしょうか。翌年には主君の織田信長から、この地を任せられ、城と町の整備を進めます。城の名は福智山城と名付けられます。今の様に「福知山」となるのは、1728(享保13)年の事です。



ただ光秀は主に近江の坂本の城に居て各地を転戦、しかも2年後の6月には「本能寺の変」を起こして討たれますから、どこまで自ら街造りにタッチしたのかは分かりません。しかし今日の福知山の礎を固めた名君として、地元では篤く尊崇され、町は今、来年に迫った大河ドラマを待ちわびているのです。

春めいた季節の合間に忍び込む寒の戻り、この朝の福知山の最低気温は、氷点下0.6度という事でした。時々雨粒が風に乗って来るようなスタートでしたが、日差しも出て気温も10度程に上り、燦歩日和になりました。ボランティアガイドさんの案内で、城に向かいます。

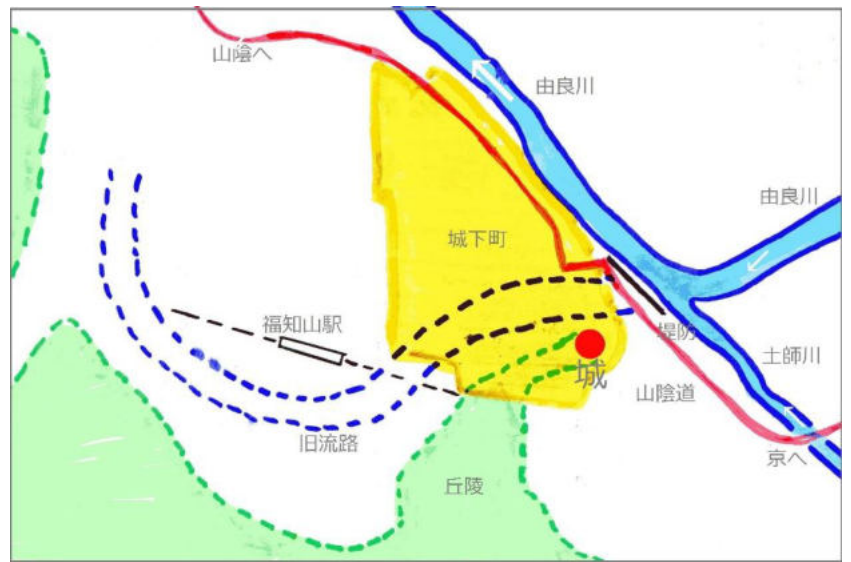
この地は古くから丹波の交通と商業の中心でした。都と山陰を結ぶ山陰道の宿駅として、また、由良川の水運の川港として栄えてきました。織田信長が有能な部下の明智光秀に、この地で、丹波の経営を任せたのも、そのためでしょう。町は「丹波の京」とも称されました。

駅から城に向かうこの大通りの辺りは、古くは由良川の流路だったそうです。町は、水の恵みを楽しむ一方、水の猛威にも曝されてきました。光秀は、大工事で川の流れを変えます。



由良川と土師川（ゆらがわ、はぜがわ）の合流点から、点線のように西へ流れていたのを北向きに付け替え、城下町を作ります。しかしその結果、堤防は水の勢いをまともに受け、しばしば氾濫する事になったのです。

城は丘陵の先端に高くそびえ、天守閣が威容を見せています。由良川は天然の外堀です。



昼食後城に登り、全員写真です。



天守は1986（昭和61）年に市民の力により再建されたものですが、石垣には戦国の名残が見られるそうです。

写真の赤丸印に見えるタテの境目、右側が光秀時代の石垣で、左側は後世の増築です。左側の端正さに比べ、右側の野面積み（のずらづみ）の石垣は、いかにも急ごしらえの荒々しさ、戦国らしさを見せていますね。また右側の石垣には、多く他から持って来た転用石が使われているそうです。





これなどもそうでしょう。  
五輪塔の台石、いかにも近くのお墓から持ってきた感じ  
ですね。  
大和郡山城と並んで、転用石材の多い城だという事です。

城から下りて、由良川の堤防に出ました。  
洪水を防ぐための国土交通省の大規模な施設に  
並んで、その向こうに見えるのが、光秀が築き、  
竹を植えた堤防です。古くは蛇ヶ端御藪（じゃがはな  
おやぶ）と呼ばれ、近年は「明知藪」として親しまれ  
ているそうです。竹には、地盤を強くし水の衝撃を  
和らげる効果があると言われています。



堤防のすぐ傍らに、土木工事で財を成した、松村組の邸宅・事務所がありました。  
明治時代の中頃、松村雄吉が創業。福知山歩兵連隊の工事を手始めに、学校や病院の公共工事を  
請け負って事業を拡大、大正時代にかけては、姫路城の修復工事も担当しています。

その頃に相次いで建てられた松村家の主屋、洋館、茶室など8棟  
の建物は、今、京都府文化財に指定されています。  
由良川の堤防から地続きの洋館、そして一段下がって主屋は、  
表通り（山陰道）に面しています。



主屋はご覧の様な伝統的な重厚な民家です。  
1階の軒は見事に長大な丸太の梁が支えて  
いました。  
私たち以外にも多くの方の姿が見えるのは、  
今この建物に、おしゃれなケーキ屋さんが入  
っている為です。買い出し燦歩会としても  
その列に加わらない訳には行きません。

またしばらく堤防を歩きます。右が由良川、左は家並みです。  
堤防に向き合っているのは町家の2階あるいは3階です。  
それだけ由良川の水位が高くなり、高い堤防が必要だど  
いう事なのでしょう。





その町家の1軒に、市の治水記念館が入っていました。明治13年に建てられた市内で最も古い民家の一つです。内部には水害の時に家財を上階に避難させる為の「タカ」と呼ばれる、吹き抜けとテラス、荷揚げ用の滑車、ロープが残され、屋根裏には避難部屋もありました。

また中庭には、過去の洪水の水位の高さを示すモニュメントが建っていました。

一番高い水位は1907（明治40）年の8.48m（推定）、近年では平成25年9月16日の水位もそれに近い8.30mでした。

由良川の脅威は今もなお続いている訳です。

町の各所に、過去の洪水の水位を示す標識があり、人々に水への注意を呼びかけていました。



福知山は、しばしば大火にも見舞われて来ました。

古い町のたたずまいの中では、異例に幅広い路を通りましたが、通りの名は広小路。1699（元禄12）年に城下が全焼したために、拡げられた道筋です。

町の人々はこのように度重なる水害・火災を、光秀の怨霊の祟りと思い、それを鎮めるために、18世紀初めの頃、御霊神社を創建します。御霊神社には光秀の霊と共に、商売繁盛の稲荷神も祀られ、多くの人の尊崇を集めます。

御霊神社に大河ドラマの成功を祈願して、16時前の列車で、帰途につきました。



\* \* \*

相変わらずの補足・蛇足で失礼します。

## 1 泓 (ふけ) という字のこと

見慣れない文字ですが、訓読みでは「ふかい」。意味は「ふかい。水が深い。ふち。きよい。」ちなみに、Wordでも「フケ」で検索すると、出てきます。

ここでわざわざ引っ張り出したのは、福知山の名の由来という考えがあるのです。

「京都地名語源辞典（東京堂出版）」ではこう述べています。「（福知山）城は由良川、土師川の合流点に造られ、川が自然の外堀となっているが、その地を『フケチ（泓地）』つまり水害常襲の湿地を意味する語に由来する地名。「フケチ」が「フクチ」になったのでは？という考えです。因みに、「智」は明智の「智」だと云う説もあります。

## 2 二つの明知藪 (あけちやぶ)

福知山では、「明知藪」と云えば、明智光秀が由良川の氾濫を防ぐために築いた堤防の事。しかし、もう一つの「明知藪」は皮肉なことに、光秀が命を落とした最期の地の事です。

本能寺の変後、山崎の合戦で敗れた光秀は、琵琶湖岸の居城坂本へと戻る途中、京の外れ小栗栖の竹藪で落武者狩りの農民に襲われ命を落とします。そこも「明知藪」と呼ばれ、どうもこちらの方が、一般には有名なようです。（伏見区小栗栖小阪町）  
堤防に竹を植える工法は、豊臣秀吉が京の町を囲んで築いた御土居でも、採用されていますね。

### 3 福知山 スイーツ のこと

福知山は「お城とスイーツの町」とか。

古く栄えた町の伝統でしょうし、殿様が茶の湯で有名な松平不昧（まつだいらふまい）の義理の弟で、自らも大変な趣味人だった事もあるでしょうし。

家人への土産に、3点買い求めました。

「リンゴのパウンドケーキ」は「松村家住宅」のケーキ屋さんのもので、リンゴの酸味と柔らかな歯ごたえで美味でした。

丹波栗と丹波黒大豆（通称=たんばぐろ）はこの地の名産です。丹波黒納豆のしっとりした歯ごたえ、

渋皮栗納豆は渋皮のほのかな苦み、いずれも家人の評判は、上々でした。



\* \* \*

### ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。（事前に予約が必要な場合もあります）

- 今後の予定は
- 4月28日（日）平城山丘陵の古墳と平城宮跡を訪ねる（奈良）
  - 5月26日（日）新緑の西教寺と大阿闍梨の飯室谷不動尊を訪ねる（滋賀）
  - 6月23日（日）『おこしやす』 京の五花街を巡る（京都）
  - 7月28日（日）日本遺産・生野銀山を訪ねる（兵庫） \*青春18切符を利用
  - 8月 暑さを避けて 休会
  - 9月29・30日（日・月）ツアー 美ヶ原の自然を満喫
  - 10月27日（日）びわ湖バレーを楽しむ（滋賀）
  - 11月24日（日）京都一周トレイル第3回 蹴上から銀閣寺前まで（京都）
  - 12月15日（日） 納会（大阪）
  - 1月26日（日）ちんちん電車に乗って住吉さんから堺の街を歩く（大阪）
  - 2月23日（日）西行入寂の弘川寺と富田林寺内町を散策（大阪）
  - 3月22日（日）華岡青洲の里と粉河寺を訪ねる（和歌山） \*青春18切符利用

参加ご希望の方は、会務担当山村恵一にご連絡下さい。（電話090-1484-4403）

ご一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

（写真・文 おしま 生島 幸弥）